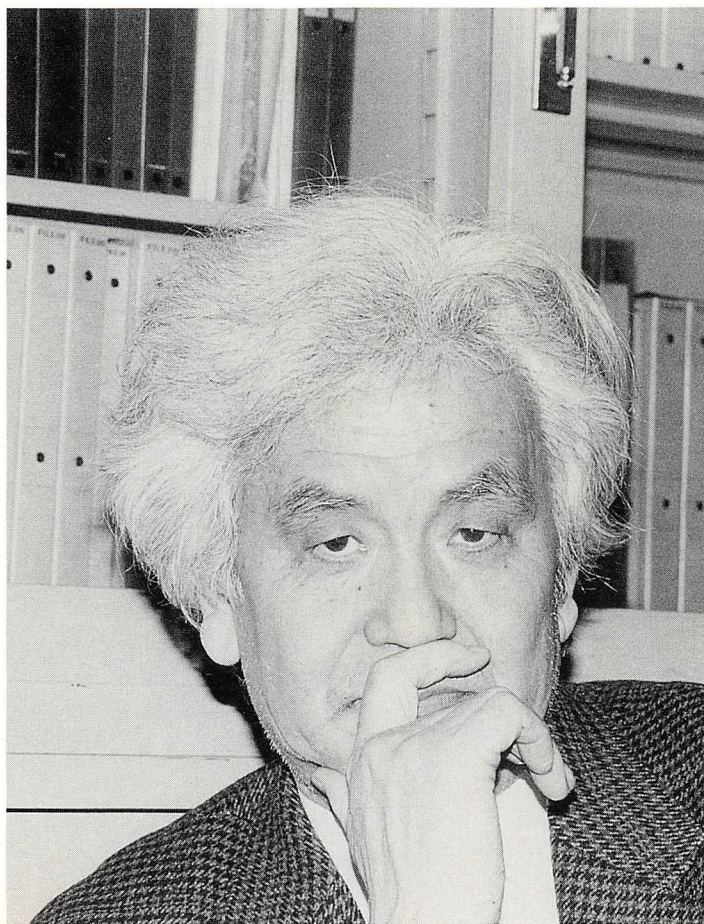


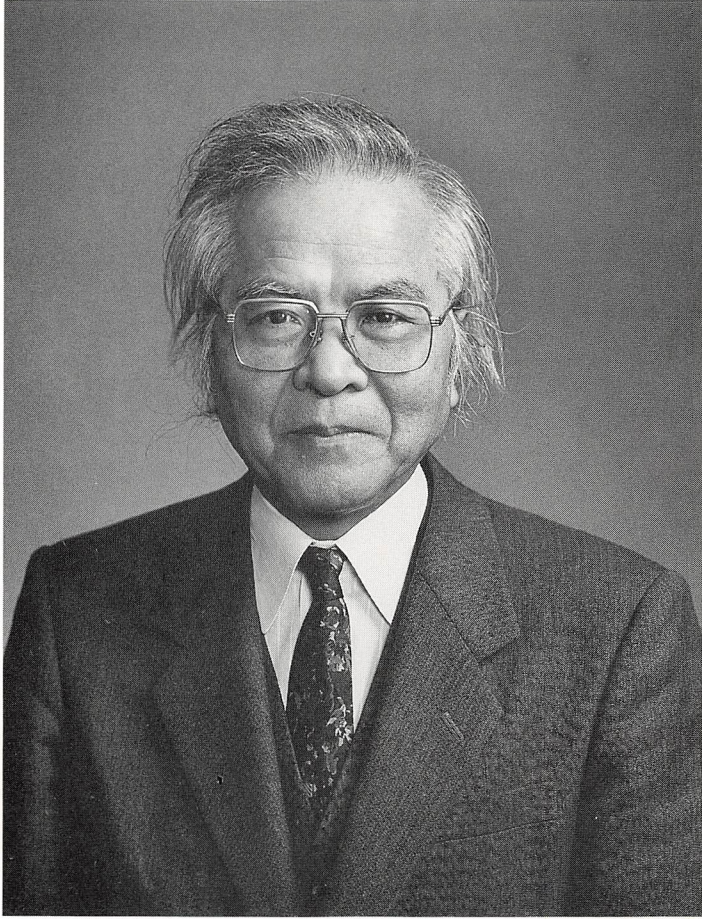
[53] 哲學年報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2344370>

出版情報： 哲學年報. 53, 1994-03-25. Faculty of Letters, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



松 永 雄 二 教 授



戸崎宏正教授

松永雄二教授 略歴

本籍地 福岡県

現住所 福岡県福岡市城南区茶山

五―二十九―十二

誕生

昭和 四年十一月

京都大学文学部哲学科卒業

昭和二十七年 三月

京都大学大学院（旧制）退学

昭和三十三年 十月

京都大学文学部非常勤講師

昭和三十四年 八月

京都大学文学部助手

昭和三十七年十一月

九州大学文学部講師

昭和三十八年 十月

九州大学文学部助教授

昭和四十五年 六月

日本西洋古典学会委員

昭和四十八年 八月

九州大学文学部教授

昭和五十一年 十月

学生部参与、学生会館委員会委員

昭和五十四年 一月

入学試験審議会委員

昭和五十四年 五月

日本哲学会委員

昭和五十四年十一月

附属図書館商議委員

昭和五十五年 六月

日本西洋古典学会常任委員

昭和五十七年 七月

九州大学評議員、教養部審議会委員、大学院委員

会委員

昭和五十九年 七月
昭和五十九年 七月

九州大学文学部長、九州大学大学院文学研究科長
国際交流委員会委員、原子力委員会委員、施設委
員会委員、入学試験審議会委員、情報科学委員会
委員及び環境保全委員会委員

平成 四年十一月

西日本哲学会委員長

平成 五年三月

九州大学定年退官

平成 五年五月

九州大学文学部名誉教授

非常勤講師

東京都立大学、北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、
大阪大学、神戸大学、広島大学、徳島大学、山口大学、熊本大
学、長崎大学、宮崎大学

松永雄二教授 業績目録

一、著 書

〔単著〕

知と不知 —プラトン哲学研究序説—

東京大学出版会

一九九三年 五月

〔共著〕

行為の構造

勁草書房

一九八一年 二月

二、論 文

1 劇“Antigone”の統一性についての一つの覺書

—主として905-12行の眞偽問題を含む—

『西洋古典学研究』IV

一九五六年 四月

第四 Epeisodionの解釋を通じて—

(あるはAntigoneと「神の法」と劇全體との關係にまつて)

『西洋古典学研究』X

一九六二年 三月

2 Phaedo 102B3-103C9

—プラトンの「一と多」とアリストテレスの「主語

『西洋古典学研究』X

一九六二年 三月

的なもの」と述語的なもの」の問題の一断面

3 実存主義

『講座哲学体系』第一卷

一九六三年 五月

4 ある原理的なもの

『講座哲学体系』第六卷

一九六四年 四月

—プラトンの美と芸術についての思索をめぐつて—

『九州大学文学部創立四十周年記念論文集』

一九六六年 一月

5 或る出発点のもつ思考

『九州大学文学部創立四十周年記念論文集』

一九六六年 一月

—プラトン『パイドン』95E-105C注釈—

『理想』第四〇九号

一九六七年 六月

6 イデア論のもつ「存在」把握について

『理想』第四〇九号

一九六七年 六月

—その若干の基礎的考察—

『理想』第四〇九号

一九六七年 六月

- 7 主述関係の成立に関する一考察
—アリストテレスの場合—
『哲学論文集』第四輯
一九六八年 九月
- 8 「存在とは何か」という問いにかかわる一考察
—ソクラテス・プラントン—
『理想』第四八四号
一九七三年 九月
- 9 —「バイドン」のための、或る覚書—
アレーテイアについて
『理想』第四九七号
一九七四年 十月
- 10 「知と不知」とをめぐる問題
—プラントンの初期対話篇に則して—
『哲学論文集』第一一輯
一九七五年 九月
- 11 或る構造(その一)
—「イデアの離在と分有について」再考—
『理想』第五一五号
一九七六年 四月
- 12 付帯性の問題
—ウーシアの問のための一つの予備的考察—
『西洋古典学』XXV
一九七七年 三月
- 13 指し示すことと「何であるか」というそのこと
「こころ」或いは「人間の生のかたち」
『理想』第五五六号
一九七九年 九月
- 14 —プラントン「テアイテトス」、『ピレボス』のための
一考察—
『哲学論文集』第一五輯
一九七九年 九月
- 15 「よくなすこと」或いは「よく生きること」
—善(よい)と存在(ある)にかかわる問題地平の
説明のために—
『理想』第五七〇号
一九八〇年十一月
- 16 ソクラテスの現存
「現代思想」vol. 10-5
一九八二年 三月
- 17 へよい(善)というそのことへの接近
—行為と徳(アレテー)にかかわる知の問題をめぐつ
て—
『行為の構造』
一九八三年 四月
- 18 問われているもの—ソクラテスの場合—
『生きがいの探究』
一九八三年 四月
- 19 自然と自然を越えるもの
『新岩波講座哲学』第五卷
一九八五年 七月
- 20 内なる正義—プラントン『国家』篇の問題—
『哲学論文集』第二三輯
一九八七年 九月
- 21 生を律するもの—徳と幸福、快と善—
『講座転換期における人間』第八卷
一九八九年十二月

「よく生きる」ということ
—ソクラテス、プラトンの問題—

『哲学論文集』第二八輯

一九九二年 九月

三、翻訳（解説、訳註）

- 1 メナンドロス「調停裁判」（『ギリシア喜劇全集』第七卷）
人文書院
一九六一年十一月
- 2 プラトン「カルミデス—思慮について—」（『プラトン名著集』）
新潮社
一九六四年十一月
- 3 アリストテレス「カテゴリアイ（範疇論）」
筑摩書房
一九六六年 八月
- 4 『世界古典文学全集』一六
（『世界古典文学全集』）
筑摩書房
一九六九年 三月
- 5 コルネアル・J・ド・フォーゲル
「アリストテレスの初期の思想形成について—いわゆる『一般的公開用の著作』の諸断片についての考察」（『ギリシア哲学と宗教』）
中央公論社
一九七二年 八月
- 6 アリストテレス「形而上学 第十一卷・第十二卷」
（『世界の名著』第八卷）
中央公論社
一九七二年 八月
- 7 プラトン「バイドン—魂について—」（『プラトン全集』第一巻）
岩波書店
一九七五年 七月

四、書評

- 1 書評：Schuh, *La Fabulation Platonicienne*.
『西洋古典学研究』III
一九五五年 三月
- 2 井上忠著『哲学の現場—アリストテレスと語れ—』
『週間読書人』第一三四九号
一九七七年十一月
- 3 われわれの生はいかにあるかということ
—稲垣良典氏の『習慣の哲学』によせて—
『創文』二一七
一九八二年 二月
- 4 書評：Rorty, A. O. (ed.), *Essays on Aristotle's Ethics*.
『西洋古典学研究』XXXI
一九八三年 三月

5 或る希有なものの現在—哲学そのものの可能性—

『創文』二八六

一九八八年 三月

四 特別報告及びシンポジウム提題

- 1 イデアの離在と分有について—或る序説—
- 2 プラトンの *philosophia*

日本哲学会第二六回大会『哲學』第一七号
中世哲学会第二四回大会
『中世思想研究』XVIII

一九六七年 三月
一九六七年 十月

戸崎宏正教授 略歴

本籍地 福岡県

現住所 福岡県太宰府市三条二丁目九番十号

誕生

昭和 五年 一月

学歴

昭和二十四年 四月

九州大学文科入学

昭和二十六年 四月

九州大学文学部哲学科（インド哲学史専攻）進学

昭和二十八年 三月

同 卒業

昭和二十八年 四月

九州大学大学院文学研究科修士課程（インド哲学
仏教史専攻）進学

昭和三十年 三月

同 終了

昭和三十年 四月

九州大学大学院文学研究科博士課程（インド哲学
仏教史）進学

昭和三十年 七月

休学、インド・ナールランダ仏教研究所に留学

昭和三十三年 四月

帰国、復学

昭和三十六年 三月

九州大学大学院文学研究科博士課程（インド哲学
仏教史専攻）退学

昭和四十一年 一月

文学博士（甲種）（九州大学）

昭和四十九年 十月

ハーバード大学に留学 (Honorary Research Fellow in Sanskrit and Indian Studies) (昭和五十年二月二十八日まで)

職歴

昭和三十六年 四月

九州大学文学部助手 (昭和三十九年三月まで)

昭和 四十年 三月

筑紫女学園短期大学助教

昭和四十二年 十月

筑紫女学園短期大学教授

昭和四十五年 四月

九州大学文学部講師 (非常勤) (昭和五十二年五月まで)

昭和五十一年 十月

福岡教育大学教育学部講師 (非常勤) (昭和五十二年九月まで)

昭和五十二年 六月

九州大学文学部助教

昭和五十五年 四月

京都大学文学部講師 (非常勤)

昭和五十八年 七月

九州大学文学部教授

昭和 六十年 四月

東北大学文学部講師 (非常勤)

昭和六十二年 四月

広島大学文学部講師 (非常勤)

昭和六十三年 十月

東京大学文学部講師 (非常勤)

平成 五年 三月

九州大学定年退官

平成 五年 五月

九州大学名誉教授

学内役職

昭和五十九年 四月―昭和六十一年三月 学生部参与

昭和六十二年 五月―平成 三年四月 入学試験審議会委員

平成 三年 四月―平成 四年三月 評議員

平成 三年十一月―平成 五年三月 附属図書館商議員

学会等

昭和五十二年 七月 日本印度学仏教学会 評議員。(平成五年三月まで)

で

昭和五十八年 五月 日本仏教学会 理事。(平成五年三月まで)

昭和五十八年 六月 日本印度学仏教学会 理事。(平成五年三月まで)

昭和五十八年 七月 西日本宗教学会 理事、現在に至る。

昭和五十九年 五月 社団法人九州大学仏教育青年会常務理事、現在に至る。

る。

平成 三年 五月 西日本インド学・仏教学会 会長、現在に至る。

平成 三年 現在に至る。

平成 四年 七月 西日本宗教学会 会長、現在に至る。

賞

昭和 四十年 五月 日本印度学仏教学会賞

平成 二年 六月 鈴木学術財団特別賞(日本印度学仏教学会)

戸崎宏正教授 業績目録

著書

- (単著)
- 1 『仏教認識論の研究』上巻 大東出版社 一九七九年 一月
- 2 『仏教認識論の研究』下巻 大東出版社 一九八五年 二月

論文

- 1 蓮華戒造 Nyāyabinduṭṭvapakṣesaṅkṣipta についで
『印仏研』VIII-1 一九六〇年 一月
- 2 「プラマーナ・サムッチャヤ」と「プラマーナ・ヴァールテイカ」―現量章の構成―
『印仏研』X-1 一九六二年 一月
- 3 「プラマーナ・ヴァールテイカ」現量章の和訳研究(1)
『哲学年報』24 一九六二年 十月
- 4 仏教論理学説と経量部説
―量・量果の非別体説について―
『印仏研』XI-1 一九六三年 一月
- 5 仏教論理学説と経量部説(2)
―プラマーナ・ヴァールテイカの意識説について―
『印仏研』XII-1 一九六四年 一月
- 6 法称における「量の二種性」の論証
―プラマーナ・ヴァールテイカ現量章の和訳研究(3)
『干潟博士古稀記念論文集』 一九六四年 六月
- 7 「プラマーナ・ヴァールテイカ」現量章の和訳研究(2)
『哲学年報』25 一九六四年 十月
- 8 仏教論理学説と経量部説(3)
―プラマーナ・ヴァールテイカの所縁説について―
『印仏研』XIII-2 一九六五年 三月
- 9 「プラマーナ・ヴァールテイカ」現量章の和訳研究(4)
『密教研究』七一・七二 一九六五年 四月
- 10 「プラマーナ・ヴァールテイカ」現量章の和訳研究(5)
『筑紫女学園短大紀要』1 一九六六年 三月
- 11 「プラマーナ・ヴァールテイカ」現量章の和訳研究(6)
『筑紫女学園短大紀要』2 一九六七年 三月

- 12 仏教論理学説と経量部説(4)
 ↳ プラマーナ・ヴァールティカ現量章第一一七偈
 ↳ 第一八三偈
 『印仏研』XV-2 一九六七年 三月
- 13 仏教論理学説と経量部説(5)
 ↳ 「量果」自証」説について一
 『印仏研』XVII-1 一九六八年二月
- 14 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(7)
 『筑紫女学園短大紀要』4 一九六九年 三月
- 15 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(8)
 『筑紫女学園短大紀要』5 一九七〇年 三月
- 16 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(9)
 『筑紫女学園短大紀要』6 一九七一年 三月
- 17 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(10)
 『筑紫女学園短大紀要』7 一九七二年 三月
- 18 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(11)
 『筑紫女学園短大紀要』9 一九七四年 三月
- 19 後期大乘仏教の認識論
 『講座仏教思想』2、理想社 一九七四年 六月
- 20 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(12)
 『筑紫女学園短大紀要』10 一九七五年 三月
- 21 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(13)
 『筑紫女学園短大紀要』11 一九七六年 三月
- 22 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(14)
 『筑紫女学園短大紀要』12 一九七七年 三月
- 23 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(15)
 『哲学年報』37 一九七八年 三月
- 24 仏教における現量(知覚)論の系譜
 『理想』五四九 一九七九年 二月
- 25 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(16)
 『哲学年報』38 一九七九年 三月
- 26 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(17)
 『哲学年報』39 一九八〇年 三月
- 27 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(18)
 『哲学年報』40 一九八一年 三月
- 28 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(19)
 『哲学年報』41 一九八二年 三月
- 29 An Approach to Dharmakīrti, International
 Dharmakīrti Conference, Kyoto, June 16, 1982
 (口頭発表のみ)
- 30 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(20)
 『哲学年報』42 一九八三年 一月
- 31 ヒンドゥー世界の人間観
 九州大学公開講座7 『生きがいの探究』
- 32 Remarks on J. W. de Jong's Notes on the
 Suvikrāntavikrāmaparipocchā-Prajāparamitā
 Text.
 『印仏研』XXX1-2 一九八三年 四月
- 33 「プラマーナ・ヴァールティカ」現量章の和訳研究(21)
 『哲学年報』43 一九八四年 二月

- 34 ダルマキールティの認識論
Kamalasila 作 Nyāyabinduṭṭarapakṣesaṅkṣipta
— 現量章のテキストと和訳 —
『講座大乘仏教』9、春秋社
一九八四年 七月
一九八四年 三月
- 35 ダルモッタラとシャーンタラクシター語にもとづく知をめぐる一
雲井昭善博士古稀記念『仏教と異宗教』
平楽寺書店
一九八五年二月
- 36 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(1)
『哲学年報』45
一九八六年 二月
- 37 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(2)
『哲学年報』46
一九八七年 二月
- 38 プラマーナヴィニシュチャヤとニヤーヤビンドゥ
『成田山仏教研究所紀要』11
一九八八年 三月
- 39 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(4)
『哲学年報』48
一九八九年 二月
- 40 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(3)
『岩波講座・東洋思想』10、岩波書店
一九八九年二月
- 41 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(3)
『藤田宏達博士還暦記念論集・インド哲学と
仏教』藤田宏達博士還暦記念論集刊行会
一九九〇年 三月
- 42 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(5)
『西日本宗教学雑誌』12
一九九〇年 三月
- 43 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(6) — ヨーギンの現量と似現量 —
『哲学年報』50
一九九一年 三月
- 44 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(7)
『伊原照蓮博士古稀記念論文集』伊原照蓮博
士古稀記念会
一九九一年 八月
- 45 S.I.I.4の意趣と各語の意味 — クマールラ著『シュ
ローカヴァールティカ』第4章(知覚ストロー)の
和訳(1)
『印度哲学仏教学』(北大) 6
一九九一年十月
- 46 クマールラ著『シュローカヴァールティカ』第4章
(知覚ストロー)の和訳(4)
『哲学年報』51
一九九二年 三月
- 47 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
量(知覚)論の和訳(8)

- 49 クマールラ著『シュローカヴァールティカ』第4章
 (知覚ストーラ)の和訳(2)
 『成田山仏教研究所紀要』15(仏教文化論集) 一九九二年 三月
- 50 般若経の論理―否定パターン―
 『真野龍海博士頌寿記念論文集・般若波羅多思想論集』 一九九二年 三月
- 51 クマールラ著『シュローカヴァールティカ』第4章
 (知覚ストーラ)の和訳(3)
 塚本啓祥教授還暦記念論文集、『知の邂逅―仏教と科学』 佼成出版社 一九九三年 三月
- 52 クマールラ著『シュローカヴァールティカ』第4章
 (知覚ストーラ)の和訳(5)
 靈藤義道喜寿記念論文集、『宗教的真理と現代』教育新潮社 一九九三年 三月
- 53 法称著『プラマーナ・ヴィニシュチャヤ』第1章現
 量(知覚)論の和訳(9)
 『哲学年報』52 一九九三年 三月
- 54 クマールラ著『シュローカヴァールティカ』第4章
 (知覚ストーラ)の和訳(6)
 宮坂有勝博士古稀記念論文集、『インド学・密教学研究』法蔵館 一九九三年 七月

書 評

- 1 PRAMĀNAVĀRTTIKA-KĀRIKA, SANSKRIT AND TIBETAN, edited by Yasho MIYASAKA (『インデ学叢刊』) May 1972
 『密教研究』5 一九七三年 三月
- 2 Anar Singh, The Heart of Buddhist Philosophy -Dināga and Dharmakīrti, New Delhi, Munshiram Manoharlal Publishers, 1984
Indo-Iranian Journal 30-2 April 1987

翻 訳

- 1 善勇論般若経、『大乘仏典』第一巻
 中央公論社 一九七三年一月